

1

小学校

防災教育実践事例

1 一・二年生

(1) 生活科「いちにさんぽで、さんさんおひさま」(佐伯市立松浦小学校)

第1学年 生活科実践報告

1. はじめに

2011年3月11日の「東日本大震災」当時、まだ、未就園児であった1年生は、その甚大な被害についての知識だけでなく、当時報道されていた衝撃的な映像についても記憶がない子どもがほとんどである。そのため、幼稚園時から地震・津波の避難訓練を4回経験しているが、まだ、地震や津波がどれほど恐ろしいものか、どんな勢いで襲ってくるものなのかというイメージはできていないままだと思われる。そこで、これまでに、DVDや写真を見せながら、大きな地震や津波の恐ろしさについて伝えてきた。子どもたちは、それらに大変関心を示し、自分たちにも無関係ではないと思ったようで、しんげんに「自分たちの命を守るにはどうしたらよいか」ということを考え始めている。

2. 単元のねらい

単元名：いちにさんぽで さんさんおひさま

内 容：(3) 地域と生活

ねらい：学校の周りや通学路の様子などに関心をもち、災害時の危険について知る。

3. 授業の様子

《5月》

- 校区内の自然に触れながら、地域にある施設などを知るといった活動に加え、交通面での危険箇所や地震・津波が起こった場合にどのような行動をすればよいかなどを考えていった。



学校のすぐ横には、海にそそぐ川が流れている。津波は海を遡ってくる。



通学路は海沿いの道路が多い。だから、高いところへあがる道を知っておこう。

《10月》

- 秋の季節を感じる自然散策に加え、各地区の災害時避難場所にも足を運んだ。子どもたちは、自分の住んでいる地区の避難所は知っているが、他地区については知らないなので、友だちと遊んでいるときにもし地震・津波が起こっても避難できるようにと活動を組んだ。地区によっては、避難所がさほど高くない場所にある場合もあるので、津波の警報に気をつけ、まだ高いところへ続く道の確認もした。



火事的时候可以るように、水をためているところもある。



ここは、かなり高い。近道もたくさんあるから、早く登って来られるようにしよう。

4. 成果と課題

1年生という発達段階を考えると、こちらが働きかけなければ、防災についての意識はほとんど持つことなく生活していくであろう。しかし、入学してから常に「自分たちの命を守るには」ということを意識させながら、避難訓練や生活科の探検などをしてきたため、災害は自分たちにも無関係ではないということを1年生なりに理解してきているようだ。

しかし、私たち大人でも、実際に大地震・大津波を経験したわけではないので、想像でしか怖さを伝えることはできない。子どもたちがいつか遭うかもしれない災害をイメージし、被害を最小限にとどめられる行動ができるよう、これからも続けて意識をもたせなければならないと思っている。



学校のある場所は海面すれすれ。自分たちより背が高いこの壁の位置でも、海拔3メートル。

(2) 生活科「じしんやつなみから自分を守ろう」(佐伯市立松浦小学校)

第2学年 生活科実践報告

1. 単元名 地震や津波から自分を守ろう。

2. 単元の総括目標

○地震や津波がおきたとき、起こるかもしれない危険を予測し、回避する行動を取ることができる。

3. 単元の具体目標 (評価規準)

関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
①地震や津波が起きたときのことを知り、危険な所を積極的に調べることができる。	①校内・校外で地震が起きたとき、起こるかもしれない危険を予想し、危険を回避する行動を考えることができる。	①校内・校外には危険な所があることに気づく。
②校内・校外で地震が起きたとき、起こるかもしれない危険を予想し、危険を回避する行動を取ることができる。	②調べて、みつけたこと・感じたこと・考えたことを、工夫して表現することができる。	②危険を回避するためには日頃の準備や訓練が大切であることに気づく。
③友だちと協力して、発表の練習ができる。		

4. 指導の立場

(1) 単元について

東日本大震災は、これまでに経験したことの無い大きな被害を東北地方に及ぼし、改めて地震・津波の恐ろしさを見せつけた。地震は防ぐことはできないが、その被害を最小限にとどめるための努力は、大切であり、災害から命を守るために、日頃から地震について正しい知識を持ち、十分に備えておくことが必要である。

本単元では、「地震や津波から自分たちを守ろう」をテーマとした。地震や津波がおきたときに危険なところを調べることを通して、起こるかもしれない危険を予測し、回避する行動を考える活動は、今後も起こりうる地震・津波に対して、一人一人が安全に気をつけて行動し、避難できる力を身につけさせることができる。また、自分たちで調べたことをまとめ、発表し、話し合う活動は地震に対する具体的なイメージを持たせ、日頃からの準備や訓練が大切なことに気づかせていくことができると考えた。

(2) 児童について

子どもたちは、1学期に地域の探検を行い、特に消防署の探検では、災害時にどんな活動をするのか、自分たちはどんなことに気をつけたらよいのかを学習した。表示板や避難場所など地域に災害に対する施設や対策があることにも気づいた。また、津波を想定した避難訓練では、指定された避難場所に駆け上がり、とにかく高いところに急いで逃げることを学んだ。

2学期、子どもたちは、東日本大震災のDVDを見て、地震や津波の恐ろしさ、地震が起こったときの行動について話し合った。地震が起きたらどんな被害が起こるのか、どう避難するのかを見たり聞いたりすることができた。しかし、被害の状況をテレビやDVDでみるだけで、体験も少なく、地震の大きな揺れに伴って起こる様々な危険に対して、具体的なイメージはあまりもてなかった。地震が起こったときの対処方法についても意識していないと思われる。また、防災については、日頃からの準備や訓練の大切さについて気づいていないと考えられる。

これまでの活動を通して、子どもたちは、地震や津波について知識は得てきたが、実際に地震や津波が起こったときに、これらの知識が生かされるかどうか分からない。様々な場面での危険性や対処方法を話し合う活動を通して、日頃からの準備や訓練の大切さについて気づかせていきたい。

(3) 指導について

まず、地震が起こったとき、どんなことが起こるのかを考えさせ、校内ではどんなところが危険かを予想させる。「地震から自分たちを守る」ためには、危険なところを知ることが大切であることを意識させながら、班ごとに校内を探検し、危険なところを調べる活動をさせる。次に、みつけたところが、なぜ危ないのかを考え、危険なことを「上から落ちてくる危険」「倒れたり傾いたりする危険」「ガラスの危険」とまとめ、クラスで交流させたい。

そして、自分たちが調べたところで、実際に「上から落ちてくる危険」「倒れたり傾いたりする危険」「ガラスの危険」を確認させる。この活動を通して地震が起こったときの危険について具体的なイメージを持たせたい。危険を確認した上で、これらの危険から自分たちを守るためにはどうしたらよいかを具体的な行動で考えさせ、本当に地震が起こったとき行動できるか、普段の自分たちの生活の様子を振り返りながら確認させていきたい。靴の置き方・上靴をきちんと履くこと・荷物を整理することなど、自分たちの様子を振り返ることで、普段の生活の大切さに気づかせていきたい。

さらに、これまで調べたこと・考えたことを元にして、他の場所についても、地震が起こったときの危険と対処の仕方を考えさせる。いつ、どこで起きるかわからない地震に備えて、自分たちを守るために行動できるよう、子どもたちの意識を高めていきたい。

5. 指導および評価計画（27時間扱い）

過程	時	学 習 活 動	評価規準および評価方法
知 る	1	○地震が起きたときの様子をDVDで観て、どんなことが起こるか考える。	関心・意欲・態度①（行動観察）
	1	○地震が起こったとき、校内で危険なところを予想し、探検をする計画を立てる。	関心・意欲・態度①（行動観察）
	6	○校内を探検し、危険なところを見つける。	関心・意欲・態度①（行動観察）
	2	○みつけた危険なところが、なぜ、危険なのかを考える。	思考・表現①（行動観察）
	2	○なぜ、危険なのかを、クラスの人に伝え合い、危険なことをまとめる。	思考・表現①② 気づく①（行動観察）
や っ て み る ・ た め す	3	○みつけたことについて、実際にどうなるのか確認をする。	関心・意欲・態度①（行動観察）
	2	○わかったこと・考えたこと、気がついたことをまとめる。	思考・表現①② (まとめ表現内容)
	2	○危険なことについて発表の準備をする。	思考・表現②（行動観察）
	1	○発表する	思考・表現②（行動観察） 関心・意欲・態度③
1	○みつけたことを振り返り、どう自分たちを守るのか考える。	気づき②（行動観察）	
深 め	6	○他の場所にいるとき地震が起こったらどのようにして自分たちを守るのかを考える。	関心・意欲・態度①② (行動観察)

高 め・ る	・通学路で ・家で ・外で遊んでいるときに	思考・表現①② (まとめ表現内容) 気づき①② (行動観察)
--------------	-----------------------------	--------------------------------------

6. 本時案

- (1) 題目 「地震が起こったとき、どう自分たちを守るのか考えよう。」
(2) 主眼 校内での危険に対して、どう対処していくかを考えることを通して、日頃の自分たちの生活を、ふりかえることが出来る。
(3) 展開

展開	学 習 活 動	時	指導及び指導上の留意点	評価の観点・方法
め あ て	1 本時のめあてを知る	5	○ 地震や津波から自分を守るために、まず、校内の危険なところを調べたことを振り返り、どう対処していくかを考えることを知らせる。	気づき② (行動観察)
	2 校内で調べた危険について発表し、振り返る。	10	○ 校内で調べたことを発表し、どんなところが危険かを確認させる。 ・「上から落ちてくる危険」 ・「倒れたり傾いたりする危険」 ・「ガラスの危険」	
	3 それぞれの危険についてどう対処したらよいか考え、発表する。	15	○ どう対処したらよいか考えて発表する。 <u>じしんが起きたとき、どうしたらいいかな。</u> 上から たおれてくる ガラス ・机の下に潜る ・離れる、にげる ・はなれる ・離れる ・止める ・近寄らない	
	4 地震が起こったとき、本当に対処できるか考える。	15	○ 対処方法が出されたら、地震が起きたとき、本当にこのようにできるのかを考えさせるために、日頃の自分たちの様子を写真で見せ、 <u>こんなにしている、本当に、できるかな。</u> と、問い、普段の自分たち生活をふりかえさせる。 写真・上靴を履いていない ・脱ぎっぱなしの靴がある。 ・荷物を通り道に置いている ・机の周りに荷物がある ・はさみが出しっぱなしになっている ○ 地震はいつ起こるかわからないので普段から気をつけておくことが大事なことを確認する。 ○ 今日の授業で考えたこと、思ったことを書かせ、自分のことをふりかえさせる。	

(3) 生活科「じしんからみをまもれ」(臼杵市立海辺小学校)

1・2年生 生活科 学習指導案

指導者 新納博文・西山直子・柳原加寿子

1. 単元名 じしんからみをまもれ

2. 単元目標

- ・学校で地震が起きたときの避難の仕方を知ることができる。
- ・東日本大震災の被害を知り、これから学習する上での課題をもつことができる。
- ・地震(津波)がおきたときの避難の仕方を知ることができる。
- ・家の中や避難所までの経路において、気をつけないといけないことを考えることができる。
- ・学校の中で地震が起きたとき、何に気をつければよいか調べることができる。
- ・自分たちで避難できるか考えることができる。
- ・今まで学習したことを、全校のみんなや家庭や地域の人に知らせることができる。

3. 指導の立場

(1) 児童について

1年生17名、2年生25名はどちらの学年も明るく無邪気な子どもたちである。それゆえに、時々歯止めが利かずに、初めての避難訓練では、友だちと手をつないで楽しそうにしたり、話し声も多く緊張感が感じられなかったりといった様子が見られた。

1年生は、地震の恐さを実感しづらいため、「知っているからできる」という安易な考えをもっている。危険なところについても、自分の背丈かその下のものには気づくが、自分の背丈より上のものには気づきにくく、また全体的なもの見方が身につけていない傾向がある。

2年生は、日頃からニュースなど見たり聞いたりしていて防災に関する意識が高い子どもたちがいる。昨年、休み時間に自分たちで逃げる避難訓練に取り組んだ。しかし、実際は先生たちに声をかけられたり、手を引かれたりしながら避難していたように、自ら行動する意識が薄い子もいる。

1学期の間、防災講演会で消防署の方から東日本大震災の被害を聞いたり、防災用のDVDを見て津波が来たときの避難の仕方や気をつけることなどを学んだりしているので、地震や津波の恐ろしさを少しは理解できている。

夏休み、家庭に協力してもらい、家で地震が起きた時どうするか、家の中をチェックしてもらったり、家から避難所までの道を親子で歩いてもらったりした。「あんぜんたんけんたい」として、まとめたプリントを読んでも、そのことによって、子どもたちの意識はもちろん、親の防災意識までも高まっていることがわかった。中には、何かあったときのために、家での避難の仕方から避難所までの手順をノートに書いて、子どもに持ち出すよう指示する保護者もいた。

そうした活動に取り組んだからか、2学期初めの地震避難訓練の態度は、1学期よりも静かで真剣になっていた。また、緊急の放送が入ると「静かに!!」と自分たちで静まることができたり、日頃のちょっとした会話の中にも「上ぐつはかんと地震のとき、足を切るよ。」などの言葉が聞かれたりする。

運動会では、個人種目に避難の仕方を取り入れた。そのときのかけ声で「〇〇警報」という言葉を言うので、それが自然と耳に入ってきている。これからさらに防災に対する意識が高まってくる子どもたちである。

(2) 教材について

まず、講演やDVD視聴といった知識を得る活動に取り組む。それから、自分たちで家庭や地域、学校について調べ、まとめる自主的な活動へと高めていきたい。夏休みに家庭で「あんぜんたんけんたい」の調べ学習に取り組み、2学期は、1年生は「避難所までに気をつけること」、2年生は「学校の中で気をつけること」をテーマに自分たちで学習する。このことにより、子どもたちが、自分なりの考えをもって意欲的に学習に取り組むことができると考える。

学校内で先生が近くにいる時に起きた地震という設定をすることで、自宅で一人のとき、そして外出先でも、どこでも役立つ普遍的なものへとつなぎ、いつでも自分の身は自分で守るという意識と基本的な知識を身につけさせるのに適している教材だと考える。

(3) 指導について

この単元では、多くの時間を1・2年の合同授業で取り組んできた。初めに、学校で行う避難訓練で学習をした。ここでは、避難するときの約束を指導し、避難訓練の様子を反省させる中から次の避難訓練やこれからの学習についてのめあてをもたせた。

次の東日本大震災の学習では、消防署の方に実際に来ていただいて現地での経験を聞いて、地震や津波の恐ろしさを理解させた。その話を受けて、地震や津波が来たときどう避難すればよいか、DVDを視聴しながら学習した。そこで、自分たちが避難するとき何に気をつけるのか再度確認することができた。

どのように避難するか分かったところで、夏休みを利用して家庭にも協力してもらい、「あんぜんたんけんたい」として、家で地震が起きたときに気をつけることや避難所へ行く途中の道で危険箇所について、保護者と一緒に調べる活動を仕組んだ。2学期になって、地区ごとに調べたことの出し合いを行なった。その時、保護者にも入ってもらい、親の視点から気をつけてほしいところを伝えてもらった。

そして、「あんぜんたんけんたい…学校から避難場所（海洋科学校）までの危険なところを調べる」として、子どもたちがよく行く場所・遊ぶ場所や避難経路を、今度は自分たちだけの力で、調べ考える活動に入った。その際に、気をつけたほうが良いこととそのわけといった視点を与え、子どもたちが発表するときに共通の土台とした。

1年生は教室から避難場所の海洋科学校までの避難経路について、2年生は休み時間に学校の中で地震が起きた時、気をつけたほうが良いことをそれぞれで調べる活動に取り組んだ。

それらを1・2年の合同の授業で、お互いが調べたことについて写真を使い、分かりやすく発表させ、気をつける視点ごとに黒板に貼っておき、本時に入る。

本時は、調べたことや自分たちの避難訓練をもとに、「休み時間に地震が来て、先生たちが近くにいなくても自分たちで避難することができるか」という課題を投げかける。そこで、「逃げられる」「逃げられない」の2つの立場に立たせ、討論を行なう。そして、それぞれの意見を聞き合い、両方の意見のよいところを認めて、「どんな約束があれば、自分たちだけで逃げられるかな？」と問い、みんなで共通の約束を作る。本時ではゲストティーチャーを招き、作った約束について示唆してもらい、さらに子どもたちが気づかない視点や知識などを教えてもらう。そうすることにより、学校外でも使える普遍的なものを身につけさせる。

最後に、自分たちが学んだことを広める活動に入る。自分たちが学んできた地震や津波に関するキーワードを並べて、覚えやすい文にしたり、絵に表したりしてカルタ作りに取り組むたい。出来上がったものは、集会で全校に知らせたり、PTA等で保護者や地域の方に発表したりして、自分たちが学習することで周りの人たちの防災に関する意識を高める啓発活動にもつなげたい。

(4) 指導計画

時	学習内容	問い・課題	教科・領域等
1	避難訓練で気をつけること「お・は・し・も」の確認や実際に訓練をした後の反省から次時のめあてをもつ。	避難訓練ではどんなことに気をつければよいかな？	学級活動
2	東日本大震災での被害について消防署の方の話を聞いて、地震や津波の恐ろしさを知る。	東日本大震災ではどんなことが起きていたかな？	道徳
3	DVDを視聴し、地震や津波が来たときの避難の仕方を知ることができる。	どんな避難の仕方が良いのかな？	学級活動
4 5	家で地震が起きたときに気をつけることや避難所まで道で危ないところをお家の人と一緒に調べ、発表しあう。	何に一番気をつければ、安全に避難できるかな？	生活
6 7 8	学校で地震が起きたときに気をつけることを調べたり、自分たちでも安全に避難できる方法を考えたりする。	どんな約束があれば、自分たちだけで逃げられるかな？	生活
9 10 11 12	自分たちが学習してきたことを全校のみんなや保護者や地域の方に知らせるカルタを作る。	全校のみんなやお家の人に気をつけることを知らせるためには、どうしたらよいかな？	国語 図工

4. 本事案

- (1) 題目 せんせいがいなくてもひなんできるかな
- (2) 主眼 休み時間に地震が起きた際どうするかを、自分たちが調べたことをもとにして考えたり、ゲストティーチャーの話を聞いたりすることにより、自分たちだけで安全に避難する方法を知ることができる。

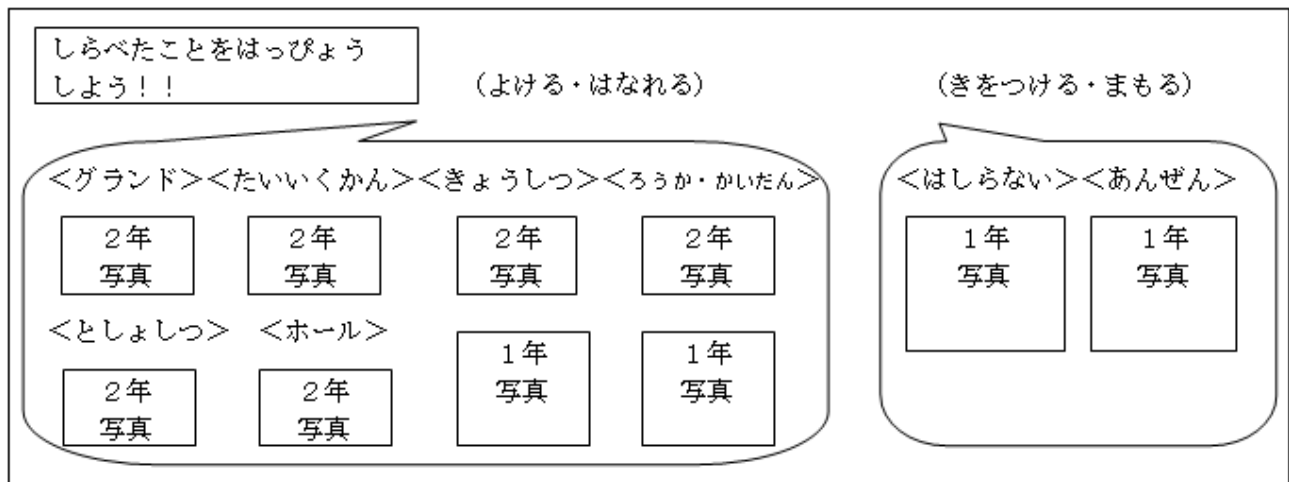
(3) 展開

過程	学習活動	時	○指導内容・及び指導上の留意点<>予想される子どもの反応
	<p>前時まで…1年生は、教室から避難経路をたどり海洋科学学校まで、気をつけた方が良いポイントを学習しまとめている。</p> <p>2年生は、学校の中で地震が起きた時、それぞれの場所でどんなことに気をつけるかなどを学習しまとめている。</p> <p>前時は…1・2年合同の授業で、お互いが調べたことを写真を使い、発表し合っている。</p>		
	1. お互いが発表しあったことを確認する。	3	○前時にそれぞれの学年で発表しあったことをおさえる。 ・2年生から指名する。前時に発表したことを板書に残しておく。
	2. 発表を聞いて、分かったことなどを発表しあう。	7	○それぞれの発表を聞いて、わかったことやよく見つけたなど思ったことなどをたずねる。 <逃げる時に壁がくずれるかもしれないということが分かった> <ネットが倒れたら、めちゃくちゃになる> ・質問がでた場合は、子どもたちがその答えを考える時間をとる。 一人で考えが出ないときは、ペアで考えるように指導する。

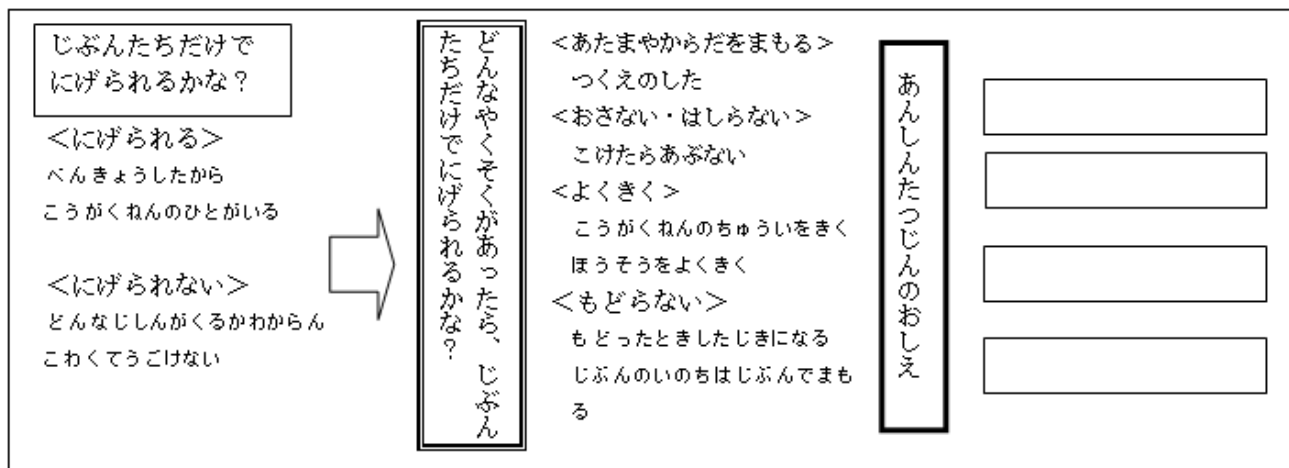
<p>3. 自分たちだけでも逃げることもできるか考える。</p>	<p>20</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問によっては、ゲストティーチャー（安全達人）に回答を求める。 ○子どもたちが地震がきても大丈夫かもしれないと思い始めたところで、課題をなげかける。 <ul style="list-style-type: none"> 休み時間に地震がきて近くに先生たちがいなくても、自分たちだけで逃げられるかな？ ・《逃げられる》《逃げられない》の立場に立たせ、それぞれの考えを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 《逃げられる》 <勉強で気をつけることが分かったから大丈夫> <6年生とか誰かがいるから平気> 《逃げられない》 <どんな地震がくるか分からないから怖い> <先生がいないと無理…> ○それぞれの意見を聞き合い、両方の意見を認めたところで、 <ul style="list-style-type: none"> どんなやくそくがあれば、自分たちだけでもにげられるかな？ という、問いを投げかける。 ・自分たちが調べたことや避難訓練を振り返って考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <体や頭を守る…机の下に入る。上靴を履く。ぼうしをかぶる。落ちそう倒れそうなものの近くに行かない> <おさない・走らない…転ぶ。ケガをする。おちる。⇒逃げ遅れる> <よく聞く…高学年や大人の注意や放送などを聞く。> <もどらない…逃げ遅れる。自分で身を守る。> ・いろいろな意見が出てくると思うが、4つくらいの視点でまとめる。
<p>4. ゲストティーチャーの方の話を聞く。</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが考えたことで、安全に逃げられるのか、授業の中で子どもたちに知らせておきたい大事なことをG・Tに話してもらおう。 ・答えは一つではないと思うので、子どもたちの考えを認める。その上で、より大事なことは何かを話してもらおうようにする。
<p>5. 今日の授業の感想を発表する。</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の授業で分かったことや思ったことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <まず、机などにかくれて自分の体を守ることが大切だということがわかった> ・ワークシートに書いた子から発表させ、感想を交流する。

(4) 板書計画

前時



本時



2 三・四年生

(1) 総合的な学習の時間「地震や津波の時、自分たちの命を守る方法を知ろう」

(佐伯市立松浦小学校)

第3学年 総合的な学習の時間実践報告

1. はじめに

2011年3月11日の「東日本大震災」の地震や津波がどれほど恐ろしいものかというイメージはできているが、実際にいろいろな場面で、どう自分が行動したらいいか分かっていないと思われる。そこで、これまでに、DVDや写真を見せながら、大きな地震や津波の時、どう行動したらいいか考えさせてきた。

2. 単元のねらい

単元名：地震や津波の時、自分たちの命を守る方法を知ろう

ねらい：地震や津波に遭遇した時の、場に応じた行動の仕方について理解し、意識を高める。

3. 授業の様子

○ 教室で、地震や津波が起きた時の身の守り方について考えた。

(期待される児童の理解)

- ・地震が起こったら、机の下にかくれよう。
- ・地震が起こったら、かくれる場所を1・2年生に教えてあげよう。
- ・地震がおさまったら、鶴見中学校にみんなで逃げよう。
- ・わからない人がいるかもしれないから「津波がくるぞ」「にげろ」と大きな声で伝えよう。



○ 休み時間、さまざまな場所で過ごしていることを確認し、それぞれの場所での危ない所を調べさせ、休み時間での身の守り方を考えた。

(期待される児童の理解)

- ・地震が起こったら、上から落ちてくるものや倒れてくるものに気をつけてまずかくれよう。
- ・地震がおさまったら、みんなでグラウンドに集まって逃げよう。



○ 自分の家で、地震や津波が起こったときの身の守り方を考える。

(期待される児童の理解)

- ・地震が起こったら、自分の家はいろいろなものが落ちてくるぞ。
- ・地震がおさまったら、どこへ逃げるか、お家の人に聞いてみよう
- ・一人でも逃げないといけないぞ。

○ 友だちの地区に遊びに行った時に地震や津波が起こったときの身の守り方を考え、それぞれの地区での避難場所を考えた。

(期待される児童の理解)

- ・海の近くよりも、逃げられる山の方へにげるぞ。
- ・学校近くは「中学校」、沖松浦は「吉祥寺」、地松浦は「公民館」や「ひだまり」ににげよう。



○ 地震に備えて用意するものを考える。

(期待される児童の理解)

- ・食べ物もほしいけど、マンガやゲームもいるなあ。
- ・いやゲームはいらないよ。



○ 自分やみんなの命を守るために分かったことを全校のみんなに発表しよう。(松小祭り)



4. 成果と課題

アニメのビデオやDVDを見て、地震や津波が起こった時、どう行動すればいいかをいろいろ学習した。それから、それぞれのタイミングでどの行動が適切かどうか探究的な学習を仕組んでいった。そのため、子どもは自分たちで考え、確かな知識を身に付けていった。しかし、実際の地震や津波は、自分たちが想定した以上のタイミングでくるかも知れない。だから、臨機応変に柔軟に子どもが動ける力を今後もつけていかななくてはならない。

(2) 総合的な学習の時間「いざという時のために～地震・津波から身を守る～」

(臼杵市立海辺小学校)

第3・4学年部 えびすタイム学習活動案

指導者 山下 進也 高橋 肇

1. 単元名 いざという時のために～地震・津波から身を守る～

2. 目 標

- (1) 地域の災害に関心を持ち、地震や津波への備えが大切であることを理解することができる。
- (2) 災害から身を守るために、どんなことをしたらよいかを調べ、考えあい、学びを深めることができる。
- (3) 家族や友だちなどみんなと安全について、話し合いや助け合いができるとともに、生命の尊さについて考えることができる。
- (4) 災害発生時には、大人の指示に従い自分の命を守るなどの適切な行動ができる。

3. 指導の立場

(1) 児童について

3年生の子どもたちは、友だち同士のトラブルが少なく、授業前には必ず全員が着席し、何事にも一生懸命で前向きに授業に取り組むことができるクラスである。話し合いになると積極的に話し合える子どもと話し合いに参加できない子どもがいる。その理由として、話の内容をつかむことが苦手なため考えを持たず、話し合いに参加できないと考えられる。

1学期には、DVDの視聴や東日本大震災で救助活動を行った消防署の東さんに講演に来ていただき、ビデオや写真など具体的な映像資料をもとに、災害時にどのようにして自分の命を守ればよいか考えた。また、地震が起こった時、身の回りに起こる危険がないかということで学校内の安全チェックを行い、「頭上からテレビが落ちてくるかもしれない」・「蛍光灯や窓ガラスが割れるかもしれない」・「先生の目の届かない危険な場所がある」など学校内の危険についても調べることもできた。

しかし、授業では真剣に学習に取り組んでいるが、子どもたち自身は大きな地震を体験したことはなく、「地震や津波の被害にあうことはないだろう」という思いこみから防災に対する意識が低い子どもが多いように思う。

1学期に安心名人アンケートをとった結果、子どもたちは地震が起こった際、学校ではどうすればいいかを理解できていた。しかし、学校の行き帰りや地区で遊んでいる時、家で過ごしている時になると、どうしたらいいか解らない子どもが半数いた。家で防災について話をする機会があまりないと思われる。

(2) 教材について

子どもたちが住む校区は、多くが海岸沿いにあり、震災時には津波や土砂崩れの危険性が大きい。また学校も海が近く、同様に災害の危険性が大きい。そこで子どもたちには、いざという時に地震や津波から自分の命を守る気持ちを持ってもらいたいと願っている。学校では、東日本大震災の教訓から度々避難訓練を行っており、津波については学習ができていると思われる。

東日本大震災では、多くの人が津波による水死であった。一方、阪神淡路大震災では、死因の多くが圧死によるものであった。それは耐震が足りない建物や固定していない家具が倒れたためである。地震は、発生場所や時間帯、そのエネルギーの大小で被害が大きく変わってくる。子どもたちは津波だけの心配をしているが、大きな地震の揺れのため、家具が倒れて家そのものが倒壊するなど家の中にはたくさんの危険がある。

避難場所へ避難するには、安全に家から脱出することが必要である。今まで気づかなかった家の中の危険性に気づき、地震発生時でもより安全に避難し、自分や家族の命を守ろうとする気持ちや態度を子どもたちに培うことは重要であると考え、本教材を設定した。

(3) 指導について

まず、今までに学んできた地震や津波の恐ろしさや被害を過去の大震災の写真や映像を見て学習し、なぜ地震や津波がおこるのかというメカニズムを学習して基礎的な知識を得るとともに、今まで学んできた命の大切さについて想起させる。

次に、「震度」と「マグニチュード」の違いを学習し、震度は0～7までの大きさがあり、震度によって揺れの大きさや屋内外の被害の様子などを学び、避難や対策を考える為の基本的な知識を学習する。

震度の違いによって被害の様子が大きく異なることを、カードを使ったクイズ形式で提示するなど意欲的に学ばせたいと思う。また、話の内容をつかむことや自分の考えを話すことが苦手な子どもには、視覚からとらえて意欲的に話し合い活動で参加できるよう、モデル部屋の絵の用意をする。

本時では、阪神淡路大震災では、①時間②震度③死因の多くが圧死であり、その中でも、室内家具の転倒により命を落としてしまった人がいるという3つの事を最初におさえて課題に入りたい。

モデル部屋の絵を見せ、今までに学んだ知識や考えをもとに、家の中の危険性を具体的に察知し、「家具が寝ている所に倒れてくるかもしれない」・「ガラスが飛び散ってけがをするかもしれない」など自分の家でもありうる危険に気づかせる。そして、『無事に外に逃げ出せるためには、この部屋にどんな工夫をしたらよいか?』という深める問いを出して、命を守るためにはどんな工夫をしたらいいか班で話し合わせる。本時の最後では、危険から命を守る工夫について感想を聞き、自分の家でもできそうなことはないかと問い、次時につなげる。

その後は、本時で考えたことをもとに、自分の家では、地震に対するどのような備えをしているかを調べ発表する。いつくるとはわからない地震に対し、常に備えをしているという家庭は少ないと思われる。本単元の学習が、それぞれの学校で学んだ備えの中で、家庭でできることはないかを家の人と相談するきっかけになってほしいと考える。そうすることで、保護者にも防災に対する意識を持ってもらえるものと考えている。

まとめとして、自分の周りにも目を向け、調べて得た知識や対策を伝えられるような標語やポスターを作り、地区にも発信させていきたい。

4. 指導計画 (全9時間)

時	学習内容	課題・問題
1	・DVD や震災時の家屋や町の様子の写真を見て命の大切さを考えるとともに地震や津波のメカニズムや具体的な知識を得る。	・津波や地震のことをもっと知ろう
2	震度の大きさで被害の規模が違うことを知る。	・震度の大きさによって被害はどう違うのかな?
3 (本時)	家の中の危険性について知り、自分の家で何をすればより安全に避難することが出来るのかを考える。	・外に逃げるまで命を落とさないよう、この部屋にはどんな工夫をしたらいいかな?
4 5	自分の家では地震に備えてどんなことをしているのか調べ、発表をする。	・地震に対する備えはしているかな?
6～9	自分の家の地震防災について標語やポスターにして発表する	・学んだことを学校のみんなや地域の人に伝えよう!

5. 本時案 (3 / 9)

(1) 題目 家の中の危険

(2) 主眼 モデル部屋の写真を使って、地震時における家の中の危険なことに目を向けさせ、安全に避難するための工夫を話し合せることにより、自分が知らない新たな対策を学ぶことができる。

(3) 展開

過程	学習活動	時	○指導内容及び・子どもへの支援、〈 〉予想される子供の反応
つかむ	1. 阪神淡路大震災の時の死因は何か一番多かったかを知る。	5	○部屋の中の危険性について学習するきっかけをつくる。 ・予想させ、理由を言わせることで現実感を持たせる。 〈津波で流されて〉 〈建物が火事になって〉 〈建物が崩壊して〉 ・阪神淡路大震災が起きた時の震度（震度 7）時間帯（5時46分）を知らせ、より具体的にイメージさせる。 ・死者の大多数は自宅での圧死であることをおさえ、用意しておいたモデル部屋の絵を子どもたちに見せて課題を出す。
見つける	2. 班でモデル部屋を見て、地震時に危険だと思う場所を見つけ、発表する。	20	○子ども達と同じ条件で危険箇所を探し、家の中の危険性について話し合うことができるようにモデル部屋の絵で考えさせる。 ・発見した危険箇所と危険だと思う理由を一緒に発表させる。 〈本棚が倒れてきて危ない〉 〈照明が寝ている人の上に落ちてくる〉 〈本棚の上の荷物が落ちてきて寝ている人にあたる〉 〈窓ガラスが飛び散ってくる〉 〈ライトがないので暗くて危ない〉 ・おさえおきたい危険箇所がでなかった場合は子ども達に危険箇所のヒントを出す。 ・普段生活している中で地震が起きたら身近に危険があることを知らせ、深める問いを出す。
出し合う	3. 安全に過ごすためにはどんな対策をすればいいか考える。	20	○発見した危険箇所にどんな工夫をしたら命を守れるかを考えさせ、発表させる。 〈家具の配置を変えて頭を守る〉 〈近くに懐中電灯を用意する〉 〈就寝する位置を変える〉 〈スリッパを用意する〉 ・「飛散防止フィルムをガラスに張る」や「転倒防止器具を取り付ける」などの子ども達だけでは出ない情報は教員が教える。
まとめる	4. 本時を振り返り、次時につなげる。		○今日学習した「危険から命を守る工夫」について感想を聞き、自分の家の中をみなおすきっかけにし、次の学習につなげる。

(3) 特別活動「津波からの避難の仕方を考えよう」(佐伯市立松浦小学校)

第4学年 特別活動(学級活動) 実践報告

1. はじめに

4年生は、避難訓練や地震、津波の話聞くだけでは、実際の災害のイメージがわきにくく、現実感に乏しい。そこで、映像や具体物を取り入れた学習を通して、地震や津波を自分にも関係することとして避難行動等について考えさせてきた。

2. 単元のねらい

(1) 単元名：津波からの避難の仕方を考えよう

ねらい：東日本大震災の映像を視聴することにより、津波の怖さを知り、避難の仕方を考える。

(2) 単元名：地震が起きた時の、避難の仕方や日常の備えを考えよう

ねらい：地震の被害を話し合ったり、実物(ブロック)を実際にかかえたりして、地震の避難の仕方や日常の備えを考える。

3. 授業の様子

- 東日本大震災のアニメを視聴した時には、現実感がわきにくかったようだが、実際の津波の映像を視聴した時には驚いた様子だった。「襲ってくる波の速さ」に気づき、「壊れていく家、流される車などの中に人がいたかもしれない。」ということ想像できたようだった。さらに、どうして地震や津波が起きるのかという新たな疑問もわいてきた。「津波からどのように逃げたらよいか」を話し合い、避難訓練の大切さにも気づくことができた。

映像を真剣に見る子どもたち



○ 子どもの感想から

もし、わたしたちの住む鶴見に大きな津波がきたら、すぐ避難場所に逃げようと思いました。地震はいつくるかわからないので、ふだんからリュックサックなどに必要な荷物を準備しておこうと思いました。地震や津波から自分の命を守るために、避難訓練などは、しっかりしようと思いました。そして、車では逃げないでしっかり走って逃げようと思いました。東日本大震災の実際の映像は、思っていた以上にこわくてびっくりしました。車や家が流されているのを見て、どんな人でも流されてしまうと思いました。そして、津波のことをもっと勉強したいと思いました。

私が思った以上に、津波は激しいことがわかりました。どこまでが海なのか、どこまでが道なのかわかりませんでした。一度の津波で、たくさんの人が亡くなったので、こわいなあと思いました。わたしたちの市に来てほしくないなあと思いました。助かった人は、どうやって逃げたのだろう。助かった人たちは、どのような生活をして食事はどうしたのだろう。私も非常食の準備をしておこうと思いました。

- 地震が起きたら、どんなことがおこるか考え、話し合ったことにより、「窓ガラスがわれる」、「塀が倒れる」、「タンスやテレビが倒れる」など具体的に想像することができた。また、避難時には、ブロックが倒れてくるので、塀のそばを通らないことや、ガラスが割れるので日頃から上靴をきちんと履いておくことが大事だと気づいた児童も多かった。また、実際にブロックを抱えさせたことで、ブロックの重さやブロック壁の恐ろしさを体感することができた。タンスやテレビが倒れないようにする対策や窓ガラスが割れても散乱しないガラスに変えるなど家庭での対策についても話し合うことができた。

ブロックを抱える児童の様子



4. 成果と課題

この学習をした後、1学期の避難訓練の時より、2学期の避難訓練の方が迅速に行動する児童の姿が見られた。授業において、実際の映像を見ることで、児童は地震や津波が自分にとっても身近な問題であることをとらえ、避難等について考えることができた。また、地震が起きたら、どんな被害があるか話し合い、実際にブロックを抱えたりする体験をとおして具体的に考えることで、地震時の避難について真剣に考える姿が見られた。これから、防災対策として、準備する物や日頃の心がけなどを深めていきたい。また、命の大切さや、家族の思い、助け合うことの大切さ等についても、道德教育と関連づけながら気づかせていきたい。

3 五・六年生

(1) 総合的な学習の時間「地震や津波から身を守ろう～松小5年生からの発信～」

(佐伯市立松浦小学校)

第5学年 総合的な学習の時間実践報告

1. 単元名 地震や津波から身を守ろう～松小5年生からの発信～

2. 単元の総括目標

- 地震や津波の怖さ、地震や津波から身を守る方法についてまとめ、全校児童や地域の人に発信することができる。

3. 単元の具体目標 (評価規準)

課題設定能力	問題解決能力	主体性・創造性・協同性	生き方
①地震や津波の怖さを感じ、身を守る方法について課題を設定している。 ②全校児童や地域の人に伝えたい内容や方法を考え計画を立てている。	①地震や津波について調べ、テーマに関連する情報を収集している。 ②友だちの考えや本などで調べて得た情報の中から必要なものを精選し、まとめている。 ③テーマや相手に応じた発信方法について調べ、ポスターやチラシ等を作成し、全校児童や地域の人に発信している。	①テーマを意識し、進んで調べ活動・表現活動に取り組んでいる。 ②友だちと協力して、効果的な表現方法や発信の仕方を考えようとしている。 ③友だちの考えや活動のよいところを積極的に取り入れ、具体的な活動を考えようとしている。	①地震や津波から身を守るために、自分でできることを実践している。 ②地震や津波から身を守ろうと、全校児童や地域の人に主体的に関わろうとしている。

4. 指導の立場

(1) 単元について

2万人以上の死者・行方不明者を出した東日本大震災。まざまざと地震と津波の恐怖を見せつけられ、改めて、生と死を分けた防災について考えさせられた惨事であった。さらに、近年予想される南海トラフによる巨大地震や津波の被害状況も報道され、全国的に防災についての改善策が講じられている状況にある。

本単元は、「地震や津波から身を守ろう～松小5年生からの発信～」というテーマで取り組む。地震や津波の怖さ、地震や津波から身を守る方法について全校児童や地域の人に発信しようという活動は、問題の解決に向けて児童が主体的に取り組むことができる活動である。

また、調べ、まとめ、発信するという活動を通して、児童の情報収集力・表現力を養い、課題解決能力を高めることができる。そして、テーマに沿ってクラス全員で取り組む活動を通して、協同的に取り組む態度を育てることができる。さらに、児童の防災に対する実践力を養い、みんなのために活動しようとする態度を養うことができる。

(2) 児童について

児童は、1学期、「地震や津波から身を守ろう」というテーマで、まず、南海トラフによる巨大地震についての調べ学習を行った。調べ学習では、予想される時期、震度、津波の高さ、死傷者数などの情報を得るたびに、南海トラフによる巨大地震の怖さを身近に感じ、友だちと話し合う児童の姿があった。また、1学期の終わりに国語科と関連させて取り組んだ「防災物語」にも、南海トラフによる巨大地震が起こった時の様子、避難する様子が具体的に書かれ、児童の中で、地震や津波の時の防災意識が芽生えていることを感じる事ができた。

2学期に入ってから、児童は、大分大学工学部准教授の小林祐司先生の講演を聴いた。そこで、自然災害からの被害を少なくするには、事前の準備や対策が重要なこと、災害に対してしなやかに対応できるようになることが命を守ることにつながることを学ぶことができた。

10月。全校児童や地域の人に発信する内容や方法を話し合い、グループに分かれての発信の準備を始めた。南海トラフによる巨大地震についてまとめるグループ、ポスターをつくるグループ、地震や津波に対する対応についてまとめるグループ、劇の脚本を作るグループに分かれて、力を合わせて取り組んでいった。

その後、児童は、「地震や津波から身を守ろう」と、作ったポスターを地区に掲示したり、地震や津波への対応マニュアルを地区に配ったり、校内に掲示し感想を書いたりもらったりと、グループごとに全校児童や地域の人に発信していった。そして、11月18日(日)の松小祭りでは、クラス全員で、地震や津波を体験してもらおうお店を開いたり、劇で今までの学習の成果を発表したりして、全校児童や地域の方に、地震や津波の怖さや地震や津波からの身の守り方について発信していった。そして、本時まで、全校児童や保護者や地域の方にアンケートや聞き取り調査をして、自分たちの活動の成果を調べてきている。

これまでの学習を通して、児童に防災意識は育ってきているものの、地震や津波が実際に起こった時、自分の身を守る行動がとれるかどうか、先導者になれるかどうか、実践力に課題がある実態である。

(3) 指導について

まず、南海トラフによる巨大地震について話題を出し、その調べ学習から始める。次に、「地震や津波から身を守ろう～松小5年生からの発信～」とテーマを決め、目的意識・相手意識を持った探究的学習に取り組ませていく。

他者に向けて発信するためには、児童自らが地震や津波の怖さを実感していること、身の守り方を理解していくことが必要となる。そこで、ビデオで地震や津波の実際の映像を観せたり、講演を聴かせたりして、防災に対する意識を高めていく。そして、全校児童や地域の人に発信する内容と方法を考えさせていく。

同じ発信グループごとに分かれての活動では、じっくりと時間を与え、児童の試行錯誤の段階を大事にする。そうすることで、探究的学習の素地である主体性を養えると考え。また、友達との協同的に取り組む態度が養われると考え。そして、ある程度、発信内容がまとまった段階で、指導していくようにする。その後、クラスで発表会を開き、各グループの発信内容と方法について共通理解を図っていく。また、地域の人がたくさん集まる松小祭りは、クラス全員で、防災に関するお店や劇をして「地震や津波から身を守ろう」とテーマに迫る活動をしていく。

本時は、今までの活動をふり返り、今後の防災についての取り組みについて意見交換する時間である。自分たちが活動してきたことを十分に認め合い、防災意識をさらに高める授業としたい。

まず、これまでの活動の歩みをふり返らせ、大変だったことや活動して良かったことを発表さ

せる。そして、クラス全体でこれまでの活動を認め合っていく。次に、事前に調べた発信してきた成果を出し合い、自分達のこれまでの活動が全校児童や地域の方の防災意識を高めている事実と未だに防災グッズを用意していない家庭が多いなどの問題点に気づかせていく。そして、「地震や津波から身を守るために、これから自分たちができることは何だろう」という課題を話し合うことを通して、防災意識をさらに高め、これからの実践へ方向性を出していきたい。

避難訓練の実施や避難経路の危険箇所の見直し実施などに関連させたこの単元を学習することで、地震や津波などの自然災害に対して、事前に準備する児童、しなやかに対応できる児童と、自分の命を守ることができる実践力のある児童を育てていきたい。

5. 指導及び評価計画（27時間扱い）

過程	時	学 習 活 動	評価規準及び評価方法
知 る	3	○南海トラフについての調べ学習をする。	課題設定能力①（行動観察）
	1	○単元全体のテーマを設定し、学習計画を立てる。 ・「防災物語」を書く。（国語科）	課題設定能力①（行動観察）
	2	○防災についての講演を聴く。	課題設定能力①（行動観察）
	2	○地震や津波のビデオを観る。	課題設定能力①（行動観察）
や っ て み る ・ た め す	1	○全校児童や地域の人に発信する内容や方法を話し合う。	課題設定能力②（行動観察）
	6	○発信する内容をまとめる。	問題解決能力①② （まとめ表現内容） 主体性・創造性・協同性①②（行動観察）
	1	○発信内容・発信方法の発表会をする。	主体性・創造性・協同性③ （行動観察）
深 め る 高 め る	6	○まとめたことを発信する。 ・松小祭りで、店や劇をする。	生き方①②（実践） 問題解決能力③（実践）
	2	○発信した成果を調査する。	生き方②
	1	○活動のあゆみをふり返り、今後の取り組みを話し合う。・・・（本時）	主体性・創造性・協同性③ （調査用紙・行動観察）
	2	○津波や地震から身を守る実践活動をする。 ・避難経路の危険箇所を探る。 ・家庭での備えを実践する。	生き方①（行動観察）

6. 本時案

(1) 題目 「これまでの活動をふり返ろう」

(2) 主眼

地震や津波から身を守るための今後の実践や取り組みについて、調査用紙をもとに自分達の発信した成果や課題を話し合うことを通して、考えることができる。

(3) 展開

展開	学習活動	時	指導及び指導上の留意点	評価の観点・方法
め あ て	1. 本時のめあてを知る。	5	○「地震や津波から身を守ろう」と発信してきた活動を提示し、「これまでの活動についてふり返ろう」と本時のめあてを知らせる。	
学 び 合 い	2. これまでの活動をふり返る。 ・ 大変だったことを発表する。 ・ 活動してよかったことを発表する。	10	○ 大変だったことや活動して良かったことを発表させ、これまでの活動をふり返らせる。 ・ 自分たちの活動をやり遂げたことを認め合うようにする。 ・ クラス全員でやってきたことや友達と助け合ってきたことをふり返らせる。	
	3. 活動の成果と課題について話し合う。 ・ 発信して効果があったことを発表する。 ・ 発信しても効果がないことを発表する。	20	○ 調査用紙をもとに、発信の成果を発表し、話し合う。 ・ 自分たちが発信したことが、全校児童や地域の人々の防災意識を高めていたことを確かめる。 ・ 発信しても防災意識がない事実気づかせる。 ・ 家に防災マニュアルをはってない。 ・ 防災グッズを用意していない。 ・ 家族で防災について話していない。	主体性・創造性・協同性③ (調査用紙・行動観察)
ま と め	4. 「地震や津波から身を守る」ために、自分たちができることを話し合う。	10	○ 「地震や津波から身を守る」ために、自分たちができることはないかを考えさせ、今後の実践につなげていこうという意欲を喚起する。 ・ 自分の家で、防災についての話し合いをして、できることから始める。 ・ 避難訓練をして、地震や津波から身を守れるようにする。	

(2) 総合的な学習の時間「地震や津波から身を守ろう」(臼杵市立海辺小学校)

第5・6学年 えびすタイム学習活動案

指導者 丹生京子 広瀬 彰

1. 単元名 地震や津波から身を守ろう

2. 単元目標

- ・災害に際し、自分自身の安全だけでなく、周りの人の安全にも配慮することができる。
- ・地域の防災マップを作成することで、地域の防災上の課題を探ることができる。
- ・防災マップ作りで学習したことを、新聞や看板、標語にして地域に還流することができる。

3.指導の立場

(1) 児童について

5年生22名は活動的な子どもが多い。発想は豊かで、いろいろなことに興味を持ち、積極的に学習しようとする姿がみられる。課題に対して、多様な考えを持つことができる。反面、興味が長続きせず、追求の途中で投げ出してしまいう傾向が大きい。また、自信がないために、自分の考えを表現することが苦手な子どももいる。委員会活動や、運動会での係活動を通して、高学年としての意識も出てきている。6年生と活動を共にすることで、高学年としての行動を学ぶことができている。校内の避難訓練では、ほとんどの子どもが真剣に取り組んでいる。ふざけている友だちがいても、自分のことで精一杯で、注意できる余裕はない。

6年生20名は、1年生のお世話や、集会の司会、なかよし班の活動などさまざまな場面で、最高学年としての自覚が芽生えてきている。学習に対してはまじめで、個々は考えを持てるが、それを全体に広げていくことはやや苦手である。校内でのたてわり班活動や委員会活動などで、どの子どもリーダーとして、話し合いを進める力もついてきた。また、やらなければならないことに対しては、きちんと最後まで取り組むことが出来る。しかし、友だちと違う考えや発想を全体に広げていくことに抵抗を感じている子どもが多い。その意味ではクラスの垣根を取り払い、5年生と合同学習することは、20人にとっては責任感を持ち、意欲的に取り組めると思われる。防災については、子どもたちは日ごろの避難訓練を通して、自分の身の守り方については理解、行動ともに身につけている。先日行われた大分県南部地区総合防災訓練で、避難者として参加したことは、子どもたちの防災意識を向上させる大きな経験になった。

全校でとった防災についてのアンケートでは、「地震や津波が起こったときどうすればいいか知っている」と答えた子どもが多いが、「学校での行き帰りに命を守るために気を付けているか」という問いに対しては約3割の子どもは「いいえ」と回答している。「知っていること」と「実際の行動」が伴っていない実態がある。また、「学校で地震や津波が起きたらどうすればいいか」については、ほぼ全員が「知っている」と回答しているが「登下校中、地区で遊んでいるとき地震や津波があったらどうすればいいか」と、学校以外になると2～3割の子どもが「わからない」と回答している。校内での避難訓練だけでなく、登下校、放課後など地域に帰った時の避難、身の守り方についても考えていく必要があると考える。

(2) 単元について

本校は海に面しており、子どもたちにとっても海は大変身近で生活に密接したものである。これまでの学習の中でも、生活科や総合的な学習を中心に、海に触れ合う機会を多く持ってきた。2年前の東日本大震災を機に、海がただ楽しいもの、恵みをもたらすものだけではないことを子どもたちは感じている。

防災学習については、本校の校区の多くが海拔10メートル以下で大きな地震があれば津波の被害もありうる地域であることから、子どもたちにとっても必要感のある学習だといえる。南海地震や東南海地震も起こりうるといわれている現在、それに対する最大限の備え(学習)をしておくことは、必要不可欠である。子どもたちが地震が起きた時に、身の回りにどんな危険があるのかに気づき、その危険を回避することができれば自分やまわりの人の命を守ることにもできるのだと理解できれば、主体的にこの単元に取り組めるであろうと考える。

『防災マップをつくる』『防災新聞・防災標語・防災看板を作って知らせる』活動は、地域を歩き、地域の人の声を聞き、自分や地域の人の身を守る学習として意欲を持って取り組める単元であると考える。

(3) 指導について

活動の最初に、「津波からにげる」のDVDを視聴した。子どもたちは「津波がこわいと思った」などの感想と同時に「家から海洋科学や、諏訪山までなるべく早く走って逃げられるようにやってみたい」「自分の家からどこを通過してどこへ避難すればいいか決めておきたい」という、次の活動につながる感想も持った。そこで、まず、自分の家の地区の避難場所に行ってみた。その中で「坂が急すぎる」「家から遠すぎる」「草が多くて通りにくい」「お年寄りはいけるだろうか」などの問題点にも目を向けていった。そこで、夏休みの課題として地域のいろいろな人に、避難場所、避難経路についての思いの聞き取りをした。その内容を「よさ」「困り」に分けて防災マップにまとめていく。それを発表しあい、本時では各避難場所の共通の困りをまとめ、解決方法を探っていく。自分たちでできること、地域の大人と協力してできること、市にお願いをしていくことの3つに分けて整理し、そして、解決する方法を探り、自分たちにはできる行動を起こしていきたい。地域の大人と協力が必要なことは、保護者や地区の役員さんと連携し、また行政に対しては、市の担当をゲストティーチャーとして招き、話を聞いたり、質問をしたりしながら解決に向けて学習していきたい。その際、個々で考えるだけでなく、ペア学習も取り入れることで、自分の考えに自信が持てない子どもの不安を取り除きたい。また、防災マップ作りと同時に、津波のメカニズムについても専門家の話を聞いて、学んでいく。

調べて分かったこと、調べて変わったことなどを、「防災新聞」「防災標語」「防災看板」などにして、日ごろからお世話になっている地域の人たちの役に立つ形で発信していくことも考える。

4. 指導計画

時	活動内容	問い・課題	評価規準(付けたい力)
1	「津波から逃げる」のDVDを視聴し、地震や津波の恐ろしさ、避難の仕方を知り、これからの活動の見通しを持つ	DVDを見て、どんなことを思ったかな、これからどんなことをしていきたいかな？	これからの活動に興味・関心を持つ (見つける力)
2 3	各地区に分かれ、津波の際の避難経路を体験する	自分の家の避難場所にうまく逃げられるかな？	
4	地区の人から、避難経路についての思いを聞き取る。	地域の方は、避難経路のことをどう思っているだろうか？	地域の方の声を集める (情報を集める力)
5 10	地区ごとに、聞き取ったことや、自分で行って気付いたことを「防災マップ」として模造紙に写真や言葉でまとめ、発表会を行う	避難場所・避難経路を防災マップにまとめ、発表しよう。	班で協力して防災マップにまとめ、発表する (表現する力)
11 本時	避難経路の、共通の良いところや、困りを見つけ、解決の方法を考える	共通の困りはなんだろう。解決するにはどうしたらいいかな？	困りの解決方法を見つめる。 (見つける力)
12	困っていることの解決に向けて自分たちでできることをする。	自分たちでできることをやっ て行こう	自分たちで行動を起こす。 (追究する力)
13	困っていることの解決に向けて、地域の人に聞いたり、お願いしたりする。	地域の人に協力をお願いしよう。	
14	行政の防災対策について学ぶ	市に、私たちの困りを聞いてもらおう。市はどう考えているのかな？	
15 16 17	学んだことを、防災看板や防災標語、防災新聞などにして、地域の人に知らせていく。	地域の方が、より安全に避難場所に行くためには、どうすればいいかな？	自分たちの活動を地域の人に環流する。 (広め・活かす力)

5. 本時案

- (1) 題目 海辺地区の避難場所の「困り」について考えよう。
- (2) 主眼 各地区の避難経路・避難場所の共通の困りの解決方法を、前時にまとめた「よさ」「困り」の一覧をもとに考えることができる。
- (3) 展開

	学習活動	時	指導及び支援	評価の視点
つかむ	前時までに、地区ごとの「防災マップ」の発表を終えている。「防災マップ」には、地区の避難経路、避難場所の「よさ」「困り」を、写真や言葉で地図上に表している。			
	1. お互いに発表し合ったことを確認する。	5	○前時までに、地区ごとに発表したことを、「防災マップ」を使っておさえる。 ・「防災マップ」は、全ての地区の物が見えるよう掲示しておく。	

み つ け る	2. 共通して言えることはなにか考え、発表する。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にでた、「よさ」「困り」を一覧にしておき、子どもたちに配布しておく。 	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">いくつかの地区で共通していることはなんだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで考えさせる。 ・ワークシートに書かせる。 <p>○はじめに共通する「よさ」を発表させる。 〈高いので安心〉 〈たくさんの人が集まれる〉 〈家から近い〉 〈道が広い〉</p> <p>○次に共通する「困り」を発表させる。 〈坂が急〉 〈遠い〉 〈道が悪い〉 〈道が狭い〉 〈壁や木が倒れそう〉 〈明かりがない〉 〈放送・サイレンが聞こえにくい〉 〈草が多い〉 〈案内板が少ない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のワークシートにないものは発表を聞きながら書き加えさせる。 	困りの解決方法を見つける。 (見つける力) ※ワークシート
出 し 合 う ・ ね り	3. 「困り」についての解決方法を考え出し合う。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">地域の人の「困り」をどうしたらいいだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの「困り」に対して、どのような解決方法が考えられるかを、ワークシートにまとめていく。 ○考えた解決方法を発表させる。 例：〈道がせまい→広くする〉 	
あ う	4. 解決してくれるのは誰か考え、発表する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○解決してくれるのは誰か考えさせ、発表させる。 例：〈道がせまい→広くする→市に頼む〉 ・同じ解決方法のものをまとめて発表させていく。 〈市にお願いすること〉 <ul style="list-style-type: none"> ・道の整備 ・外灯の設置 ・手すりの設置 ・放送の整備 ・案内板の設置 〈地区の大人と協力していくこと〉 <ul style="list-style-type: none"> ・草刈り ・避難所の整理 ・避難訓練 ・地区の人と仲良く 〈自分たちでできること〉 <ul style="list-style-type: none"> ・地区の人と仲良く ・呼びかけ ・子どもたちが「解決できない」という判断をしたものは、無理にまとめることはしない。 	
ま と め る	5. 今日の学習のまとめをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○地区の人の「困り」を解決する方法がわかったので、これから自分たちにできることを考えていくことを確認する。 	

(3) 総合的な学習の時間「松小祭りで、地域の方々に防災を呼びかけよう」

(佐伯市立松浦小学校)

第6学年 総合的な学習の時間実践報告

1. はじめに

16人の学級である。全体的に明朗で、課題に対して真面目に取り組むことができる。子どもたちは、5年生までに避難訓練や2011年3月11日の「東日本大震災」を題材にして津波が起こる仕組みやその対応について調べたり、現地でボランティアの体験をした地域の方から聞き取り学習をしたりしてきている。

そのため、子どもたちの防災に対する意識は高まりつつある。しかし、防災に対する考えを作文に書かせると、自分たちが学習して覚えていることは書けるが、実際に体験したことのない大災害であるため、自分で予想したり、自分の考えを根拠を明確にして書くことができなかった。

そこで、子どもたちに防災を学ぶための目的をしっかりと押さえさせ、活動に対する相手意識、目的意識を持たせたり、体験活動を仕組んだりしてきた。

1学期には、事前に津波の映像を見せてから避難訓練に取り組ませたことで、避難訓練では真剣に取り組む姿が見られた。また夏休みには、「防災キャンプ」に参加し、被災時の緊急対応や被災後の避難所での生活を体験することができた。これらの体験を通して、子どもたちは防災に対する興味関心が高まっていき、被災時のための準備で必要なこと等については理解することができた。しかし、学習したことを生かすための相手意識や目的意識を高めさせることはできなかった。

2学期には、夏休みに学習した成果を生かそうと投げかけ、相手意識や目的意識を明確にして取り組めるようにした。子どもたちから出された意見によって、松浦小祭りに来てくれた地域の方々（相手）に災害から身を守るための準備へのよびかけ（目的）をしようということになり、発表への準備を進めていった。

2. 単元のねらい

単元名：松小祭りで、地域の方々に防災を呼びかけよう

ねらい：防災キャンプや調べ学習を通して学んだことをもとに、松小祭りで地域の方々に防災について呼びかけることができる。

3. 授業の様子

<夏休み>

- 防災キャンプに参加した。このキャンプでは、デジカメやGPS、タブレットを使っての地域の危険箇所チェック・避難所運営ゲーム・サバイバル術・救急救命・夜間避難訓練・非常食の試食等の体験等を通して、実践的な学習を行うことができた。



自衛隊の方から、ペットボトルでの炊飯のやり方を習っています。どの子も真剣に聞いていました。



自衛隊の方から、ペットボトルでの炊飯のやり方を習っています。どの子も真剣に聞いていました。



自衛隊の方から、ペットボトルでの炊飯のやり方を習っています。どの子も真剣に聞いていました。



自衛隊の方から、ペットボトルでの炊飯のやり方を習っています。どの子も真剣に聞いていました。



自衛隊の方に、被災時のためのロープの結び方について習いました。子どもたちは、もやい結びなどを、真剣に練習していました。



牛乳パックを使ってのホットドッグ作りに取り組みました。ペットボトルを燃やすことで、温かいホットドッグが食べられることに驚いていました。



まちの危険箇所をチェックした後は、地域の地図の拡大図に危険箇所を貼り付けて、防災マップを作りました。危険箇所について調べたことに対する感想等も出されました。



避難所運営ゲームを行い、実際に避難所を運営していくために必要な物や部屋を考え、みんなで協力しながら作っていました。

< 2 学期 >

- 防災について体験したことや調べたことをもとにして、松小祭りで防災について呼びかけるための資料作りを行った。
 - ・避難場所、危険な場所、避難経路、非常時の持ち物についてインターネットや聞き取りによって調べ、それぞれの立場ごとに、松小祭りで参加者へ呼びかけるための資料作りを行った。
- 避難訓練後に避難経路の危険箇所チェックを行ったり、松小祭りで防災への呼びかけを行ったりした。
 - ・避難訓練後に、避難経路の危険な箇所をチェックし、地図に表したことで、他の避難経路を確保する必要性に気づくことができた。
 - ・松小祭りで防災について呼びかけたことで、地域ぐるみでの防災意識を高めるきっかけを作ることができた。



松小祭りで地域や保護者の方々に防災について考える大切さについて発表しました。6年生は、それぞれの意見を出し合っ、防災宣言を発表しました。



松小祭りでは、震度七の地震が起こった時の事を想定し、地震後の津波が襲ってきた時にお母さんがいない場面を考えてもらうための劇に取り組みました。



避難訓練で想定外の津波が来た時のための避難場所に行き、途中の避難経路にある危険な物をチェックして行きました。



避難経路にも危険な箇所があり、他の避難経路も確保する必要性について考えるきっかけになりました。

4. 成果と課題

体験活動を多く仕組み、相手意識や目的意識を高めさせたことで、活動に対して意欲的に取り組むようになり、『防災について呼びかけよう』という実践的な態度が育ちつつある。しかし、防災は地域の方々と協力して取り組むことが重要であると考え。そのためにも、呼びかけるだけでなく、これからの地域行事への積極的な参加や日頃のあいさつ等、子ども達のコミュニケーション力を高める必要性を強く感じた。また、子ども達が災害に応じてしなやかで臨機応変に対応できる力を育むためには、探究的・協同的な課題解決学習を通して、更に実践を積む必要がある。